

オンライン教育とテレワーキング： デジタルが可能にする学習と働き方の変革

成瀬喜則（富山大学・名誉教授・学長特命補佐）

学習と仕事のあり方が、時間と場所の制約から解放されつつある

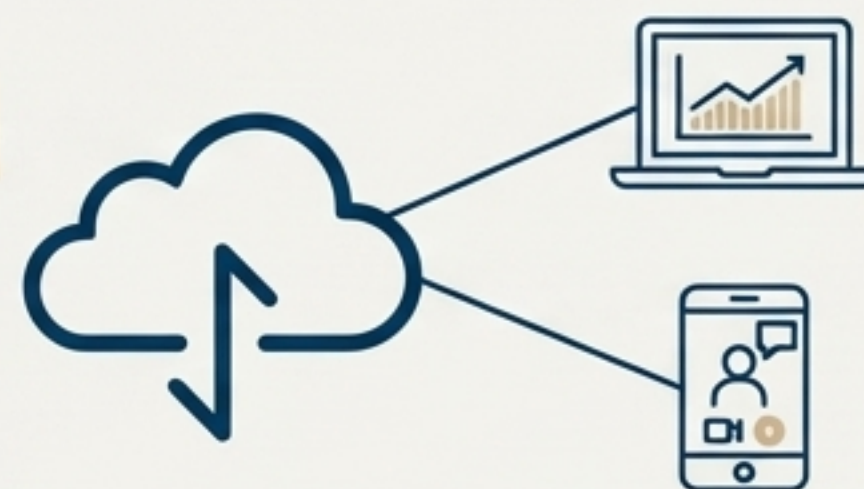
古くは通信制大学が電話やFaxを活用し、キャンパスに依存しない学習機会を提供した。

主なメリットは「場所によらない学習」と「時間によらない学習」であり、社会人の学びのツールとして有効だった。

現代のeラーニングやコロナ禍以降の働き方の変化は、この流れを決定的に加速させた。



「通信制大学」



「eラーニング / テレワーク」

オンライン教育は利便性を超え、Society 5.0時代に不可欠な資質・能力を育成する

Society 5.0のような予測不可能な社会で活躍するためには、知識・技能を活用し、課題に対処する力が不可欠である。オンライン教育は、これらの学習の基盤となる資質・能力を育む上で重要な役割を果たす。

1.



情報活用能力

- 情報の収集・整理・比較
- 情報の発信・伝達, 保存・共有
- プログラミング的思考, 情報モラル

2.



問題発見・解決能力

3.



言語能力

海外の学校との協働学習が示すように、オンラインは 同期・非同期の組み合わせで学びを深化させる

国際交流プログラム事例

- 1学期：自己紹介、学校の紹介
- 2学期：SDGsへの取り組みの紹介
- 3学期：自国の災害への取り組みの紹介

オンライン教育は、必要な時に適切な形式を導入することが有効である。



① 非同期 (Asynchronous Prep)

各校でテーマについて学習し、成果をスライドや動画でまとめる。事前に資料を交換し、自国との違いを分析。



② 同期 (Synchronous Exchange)

事前に質問やコメントを送り合った上で、リアルタイムのオンライン交流を実施。

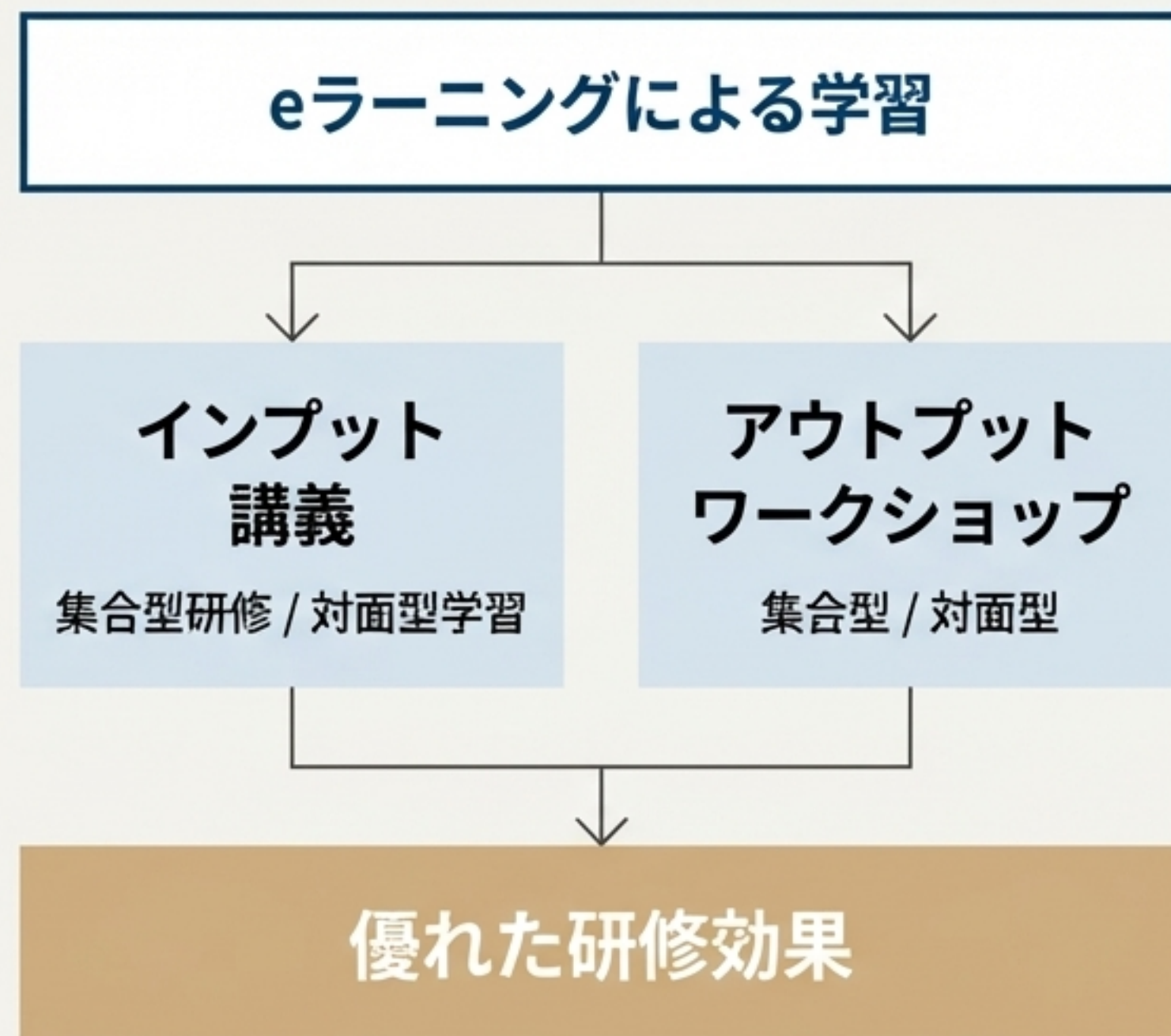
複数の学習形態を組み合わせる「ブレンディッドラーニング」が、最も優れた研修効果を生み出す

同期型（対面型研修など）と非同期型（eラーニングなど）の学習を意図的に組み合わせるアプローチ。

企業研修でのメリット

- 企業側：知識伝達型の研修コスト（会場費、印刷費）を削減。
- 受講者側：自分のペースで学習可能。

体験や議論が重要な研修では対面が有効であり、学習デザインの検討が重要となる。



メタバーブスなどの仮想空間は、 現実では体験不可能な没入型学習を可能にする

アバターを介して仮想空間内を自由に移動し、
他者とコミュニケーションできる没入型の世界。
教育・研修においてユニークな効果を発揮する。

活用事例



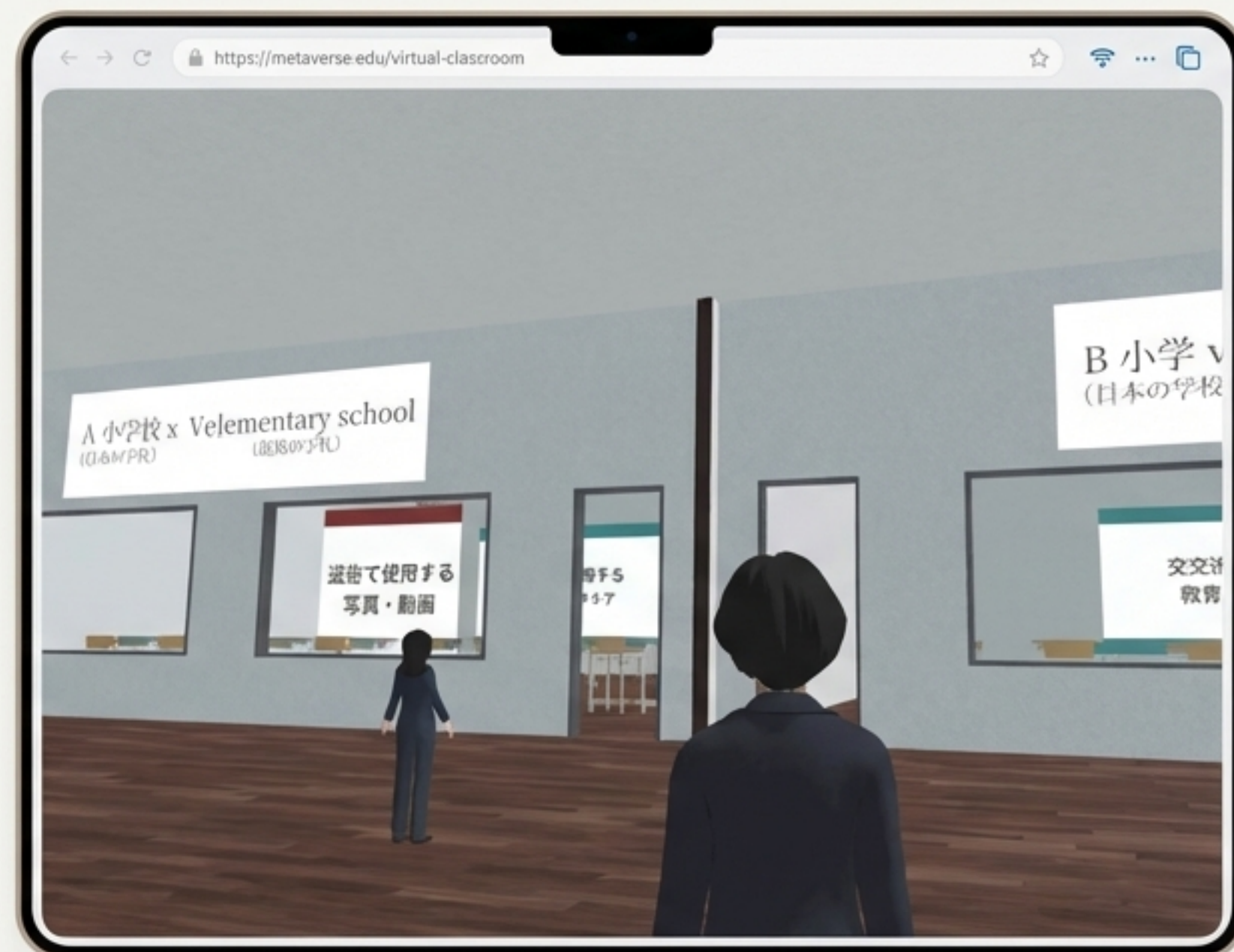
初等教育：深海や宇宙など、通常では行けない場所をクラス全員で探検する。



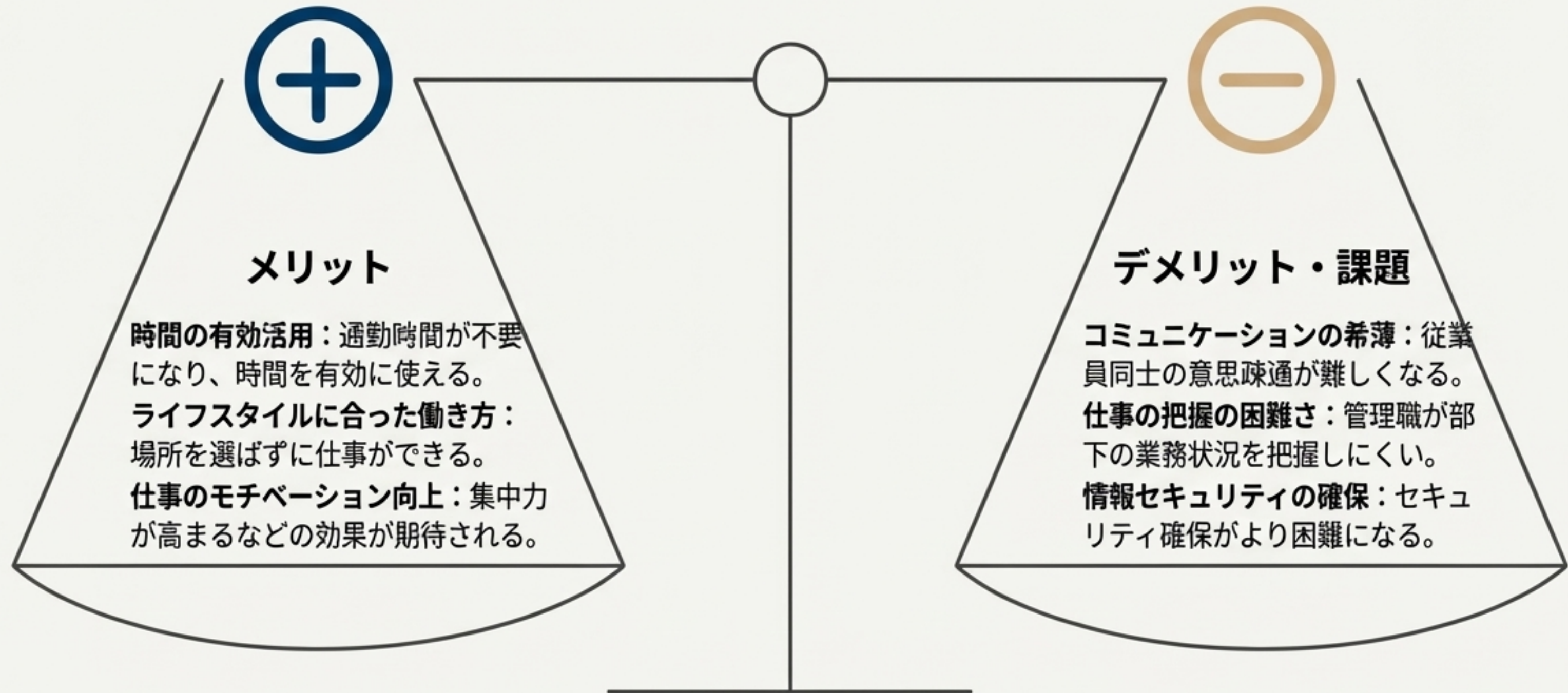
高等教育：仮想的な機械の内部に入り込み、各自の課題に沿って構造を調査する。



国際交流：複数校の学習成果を展示する仮想教室を構築し、交流を深める。

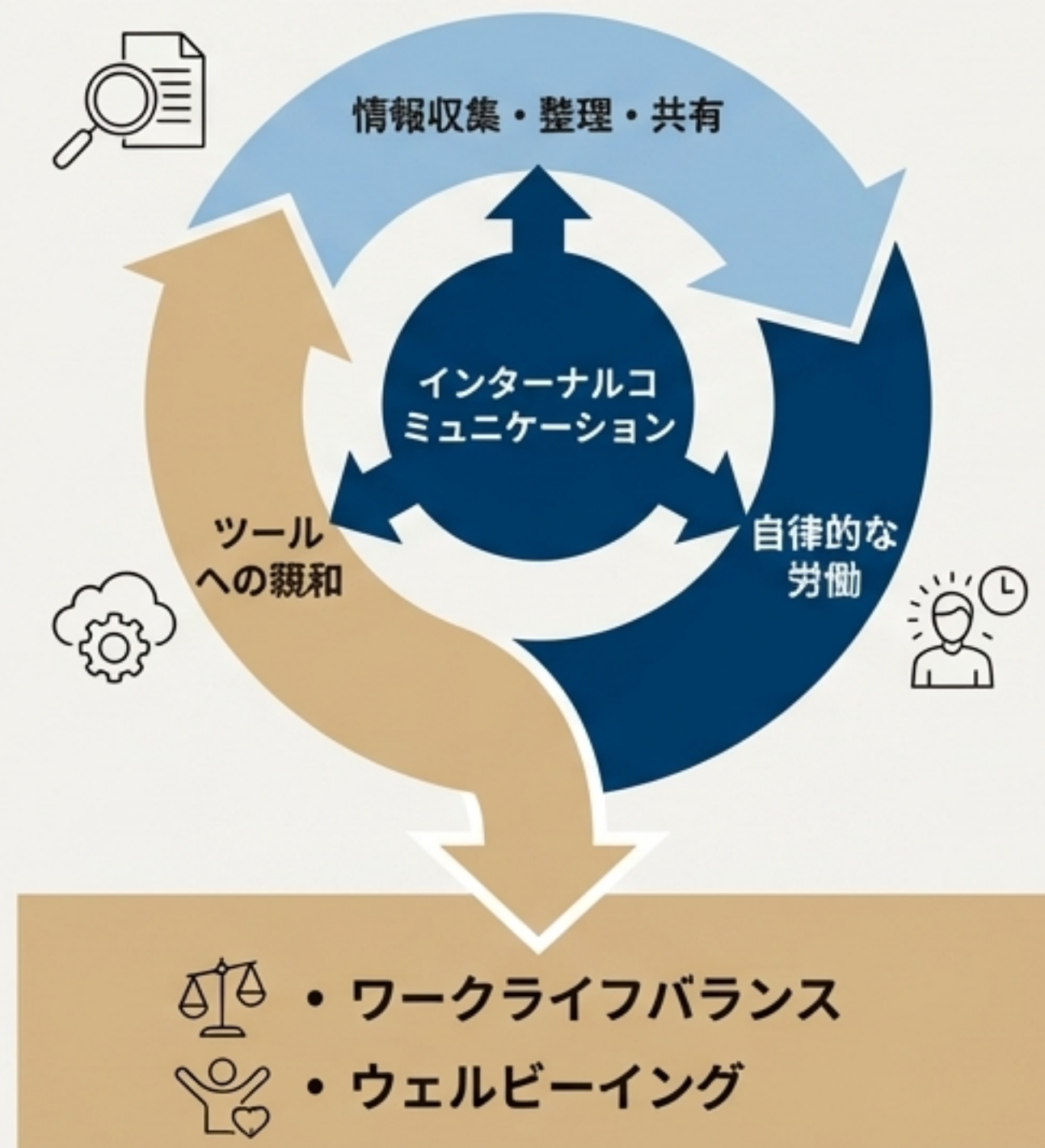


テレワークは生産性を向上させる一方、コミュニケーションとマネジメントに新たな課題を提示する



効果的なテレワークの鍵は、ツール、コミュニケーション、自律性が統合されたエコシステムにある

対面型の労働スタイルをそのまま移行するだけでは不十分。成功のためには、インターナル・コミュニケーションを中心に、複数の要素が連動する環境の構築が不可欠である。



成功には、デジタルツールへの親和性から自律的な働き方まで、4つの要素が求められる



① デジタルツールへの親和性

OSに依存しないクラウドベースのツールを活用できる柔軟性が求められる。



② インターナル・コミュニケーション力

非対面では、場の雰囲気によらず、伝えたいことを正確に伝える能力が重要。



③ 情報収集・整理・共有する力

情報共有のフォーマットや締め切り設定など、新たなルールへの柔軟な対応力が必要。



④ 自律的な労働とウェルビーイング

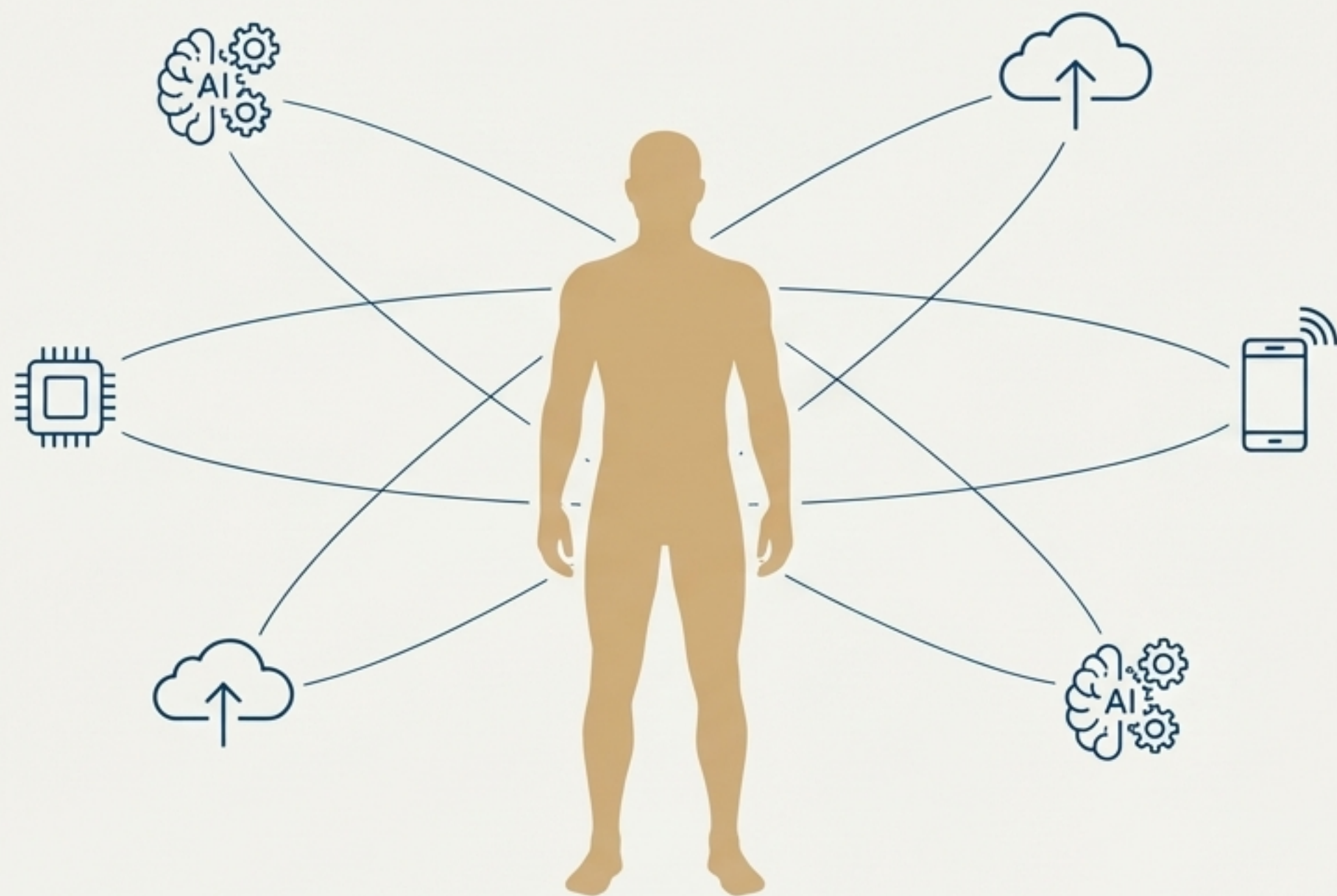
自己調整能力が必須。自律的な労働は自己肯定感を高め、ウェルビーイング向上に繋がる。

学習と働き方の両変革を支えるのは、Web会議、LMS、クラウドといった共通のデジタル基盤である

遠隔地同士を繋ぐWeb会議は、多地点・海外からの接続を可能にし、教育とビジネスの両場面で不可欠である。学習管理システム(LMS)は、eラーニングの提供や学習進捗の管理を自動化し、個人のペースでの学びを支える。クラウド上の資料共有は、デバイスや場所を問わないアクセスを実現し、協働作業の効率を劇的に向上させる。



テクノロジーへの過度な依存を避け、個人の幸福(Well-being)を向上させる主体的な活用が不可欠となる



未来を築く上で、テクノロジーの可能性とリスクの両方を見極める必要がある。目指すべきは、人間とテクノロジーが「自立共生的(コンヴィヴィアル)」な関係を築くことである。

コンヴィヴィアル (Convivial)な関係:
人間が主体性を持ち、テクノロジーを幸福向上のための道具として使いこなす関係性。

生成AIの役割は「答え」を出すことではなく、 人間の思考を拡張し、新たな視点を与えることにある



リスク

安易な活用による「思考停止」。生徒が自ら考えることを止めてしまう危険性。



期待される使い方

- 不足している視点を発見する
- 自分では気づかなかった見方を得る
- 生徒の創造性を高める

生成AIは、課題解決のプロセスにおいて、人間の思考を補助し、深化させるためのパートナーとして活用すべきである。

学習と働き方の未来に向けた3つの要点



1. 学習の進化

オンライン教育は利便性を超え、未来に必須の資質・能力を育成する戦略的手段である。



2. 働き方の変革

効果的なテレワークは単なるリモート接続ではなく、ツール・コミュニケーション・自律性を統合したエコシステムの構築を要する。



3. 未来への指針

テクノロジーの主役は常に人間であり、個人の幸福(Well-being)を最大化する「自立共生的」な活用が未来を拓く。

考察を深めるための問い

The following questions are presented to stimulate further thought and discussion on these topics.



問1: オンライン教育の特徴について説明しなさい。学校教育ではどのような場面で活用するといいと思いますか。



問2: テレワーキングの利点と課題を挙げなさい。テレワークを進める上でどのようなことに留意する必要があると思いますか。



問3: オンライン教育やテレワーキングを進める上でデジタルテクノロジーをどのように活用すればいいか具体的な例を挙げながら説明しなさい。



ご清聴ありがとうございました